

資料編 1 : 現状把握・調査



① 現状分析 (インバウンド観光を促進する重要性)

国内では人口減少や少子高齢化が進行しており、今後、国内消費の縮小が予想されます。

その中で、外国人旅行者は国内の旅行者に比べて消費単価が高く、インバウンド観光を積極的に促進することで、地方経済の活性化に大きく寄与することが期待されます。

定住人口1人当たりの年間消費額（約135万円）は、旅行者の消費に換算すると、国内旅行者（日帰り）69人分、国内旅行者（宿泊）19人分、**外国人旅行者6人分**に相当します。

定住人口1人あたりの消費額
135万円



国内旅行者（日帰り）
69人

1人1回あたり旅行支出 19,533円



国内旅行者（宿泊）
19人

1人1回あたり旅行支出 69,362円



外国人旅行者
6人分

1人1回あたり旅行支出 226,851円

資料：観光庁「旅行・観光消費動向調査」「インバウンド消費動向調査」より

① 現状分析 (外国人旅行者の推移)

○外国人旅行者の状況 (国内)

- 国内の外国人旅行者の延べ宿泊者数は、2019年に1億1,600万人となり、その後、コロナ禍により2021年には432万人まで大きく減少したものの、2024年は1億6,400万人となり、過去最高を記録しました。



① 現状分析 (外国人旅行者の推移)

○外国人旅行者の状況 (県内)

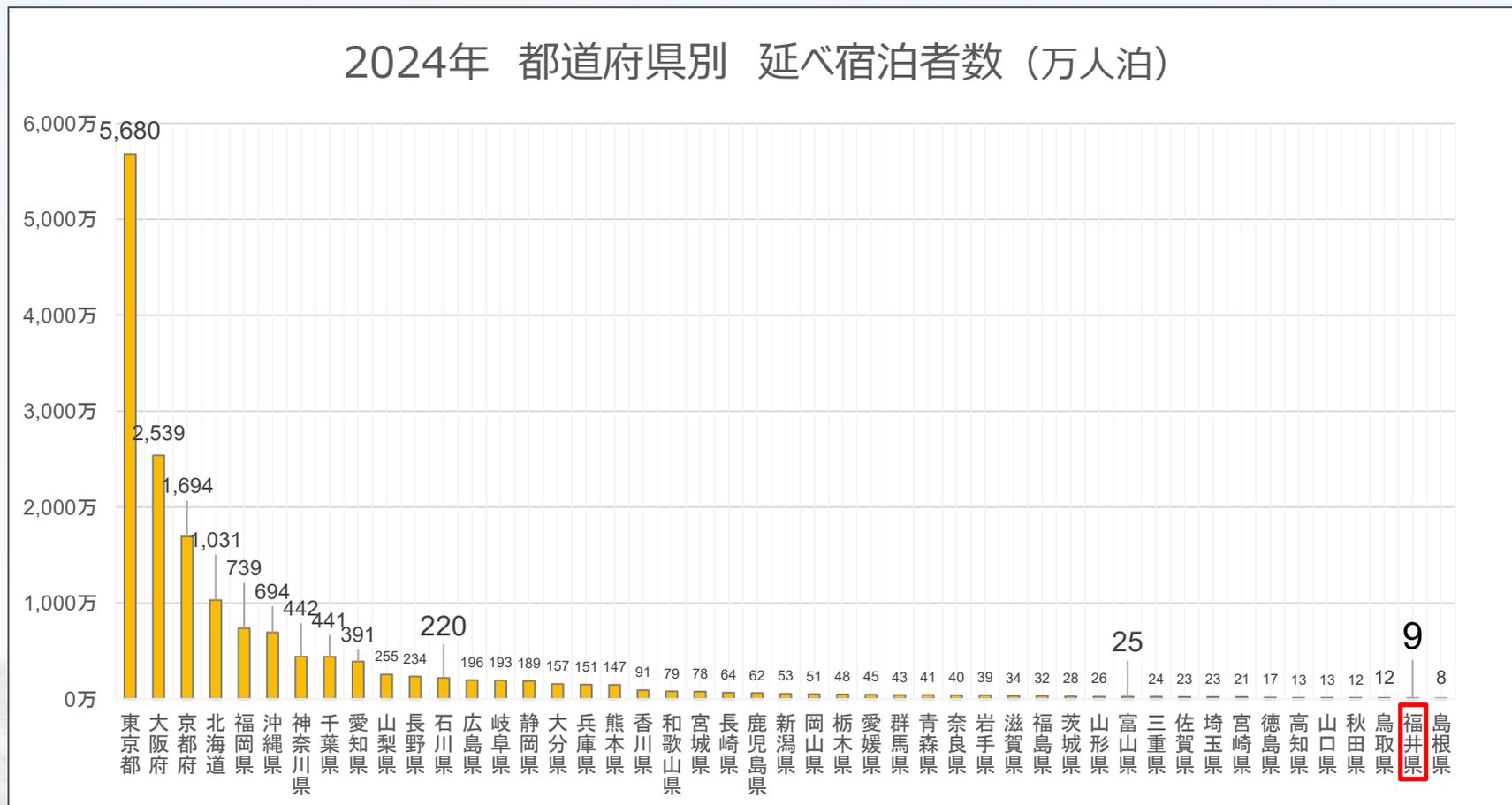
- 福井県内の外国人旅行者の延べ宿泊者数は、2019年に9万8,000人となり、その後、コロナ禍により2021年には9千人まで大きく減少したものの、2024年は9万2,000人まで回復しています。



① 現状分析 (外国人旅行者 都道府県別)

○外国人旅行者の状況 (都道府県別)

- 2024年の都道府県別延べ宿泊者数は、東京都が最も多く、次に大阪府、京都府、北海道、福岡県、沖縄県の順となっており、三大都市圏やリゾート地を中心に集中しています。
- 福井県は47都道府県のなかで46番目となっており、外国人旅行者は少ない状況です。



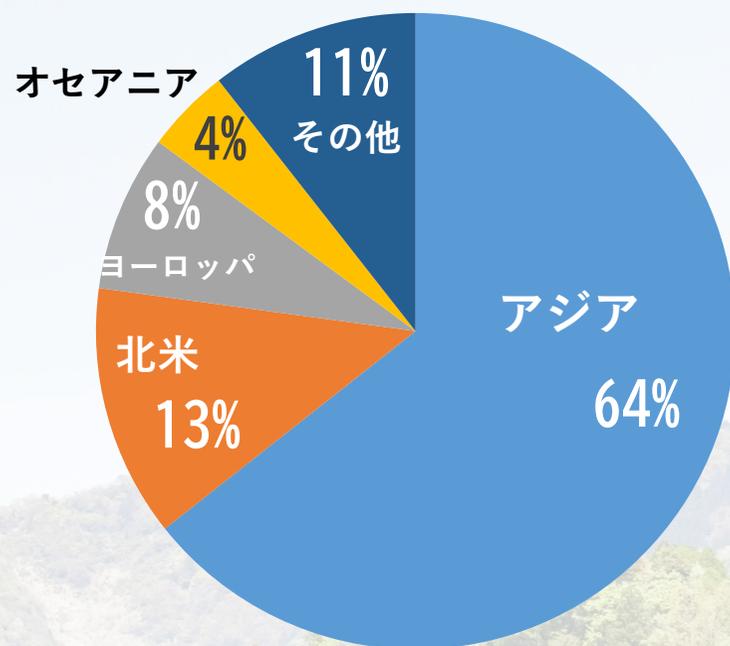
資料：観光庁「宿泊旅行統計調査」

① 現状分析 (外国人旅行者の地域ごとの割合)

○国内の状況 (2024年外国人延べ宿泊者)

- ・エリア別の割合はアジアが64%、次いで北米が13%、ヨーロッパが8%、オセアニアが4%となっています。
- ・国・地域別では中国が最も多く19.2%、次いで台湾が14.0%、韓国が13.7%とアジアが上位を占めており、次いでアメリカが11.0%、香港が5.9%と続いています。

地域別外国人宿泊者数

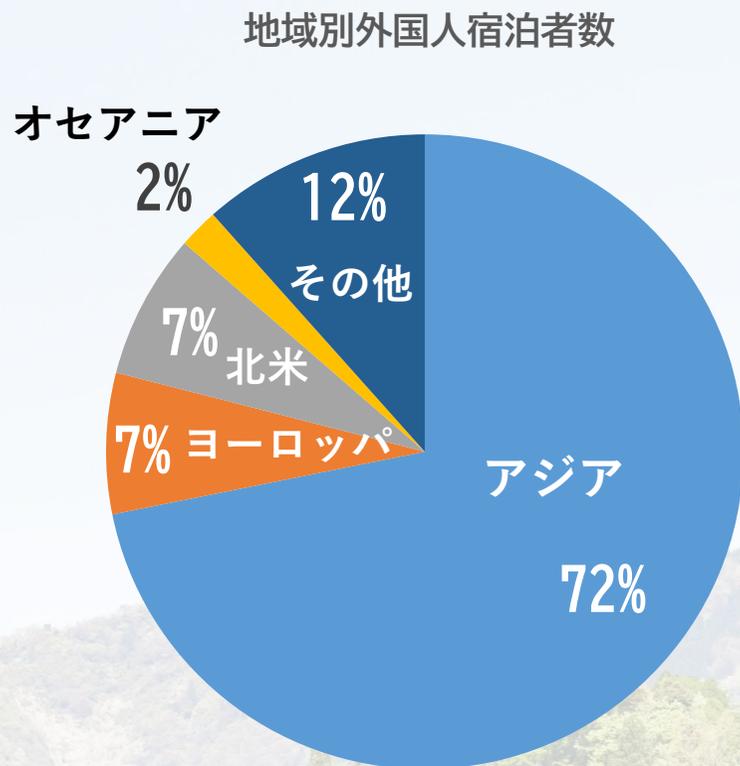


順位	国名	延べ人数 (千人)	比率	地域
1	中国	25,195	19.2%	アジア
2	台湾	18,406	14.0%	アジア
3	韓国	17,996	13.7%	アジア
4	アメリカ	14,485	11.0%	北米
5	香港	7,787	5.9%	アジア
6	オーストラリア	5,657	4.3%	オセアニア
7	シンガポール	4,140	3.1%	アジア
8	タイ	3,829	2.9%	アジア
9	イギリス	2,787	2.1%	ヨーロッパ
10	カナダ	2,378	1.8%	北米
11	フランス	2,189	1.7%	ヨーロッパ
12	ドイツ	1,964	1.5%	ヨーロッパ
13	フィリピン	1,931	1.5%	アジア
14	インドネシア	1,850	1.4%	アジア
15	マレーシア	1,790	1.4%	アジア

① 現状分析 (外国人旅行者の地域ごとの割合)

○福井県内の状況 (2024年外国人延べ宿泊者)

- ・エリア別の割合はアジアが72%、次いでヨーロッパが7%、北米7%、オセアニアが2%となっています。
- ・国・地域別では台湾が最も多く23.4%、次いで香港20.0%、中国13.9%、アメリカ6.2%、タイ4.2%、韓国4.1%、イギリス2.5%となっています。

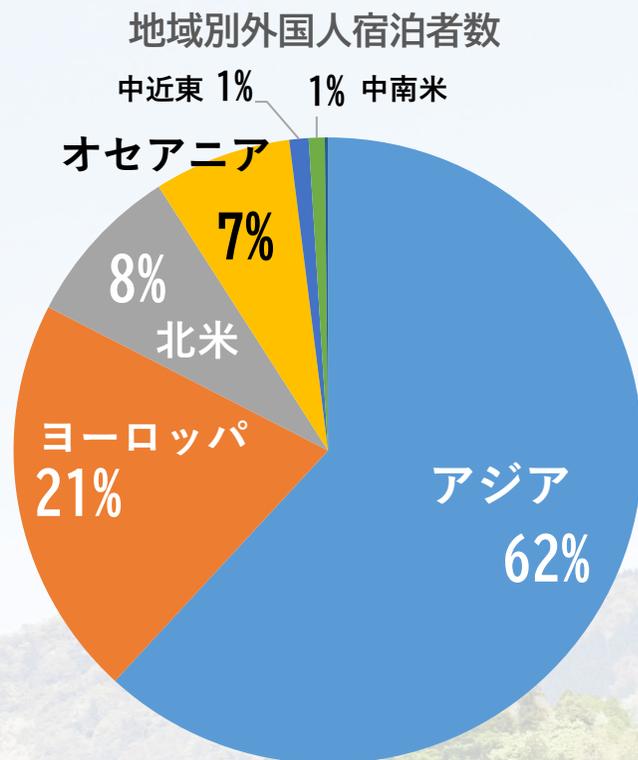


順位	国名	延べ人数 (人)	比率	地域
1	台湾	15,870	23.4%	アジア
2	香港	13,550	20.0%	アジア
3	中国	9,380	13.9%	アジア
4	アメリカ	4,200	6.2%	北米
5	タイ	2,850	4.2%	アジア
6	韓国	2,800	4.1%	アジア
7	イギリス	1,680	2.5%	ヨーロッパ
8	オーストラリア	1,370	2.0%	オセアニア
9	フランス	1,270	1.9%	ヨーロッパ
10	シンガポール	1,260	1.9%	アジア
11	フィリピン	960	1.4%	アジア
12	ドイツ	860	1.3%	ヨーロッパ
13	ベトナム	840	1.2%	アジア
14	カナダ	810	1.2%	北米
15	マレーシア	520	0.8%	アジア

① 現状分析 (外国人旅行者の地域ごとの割合)

○大野市の状況 (2024年外国人延べ宿泊者)

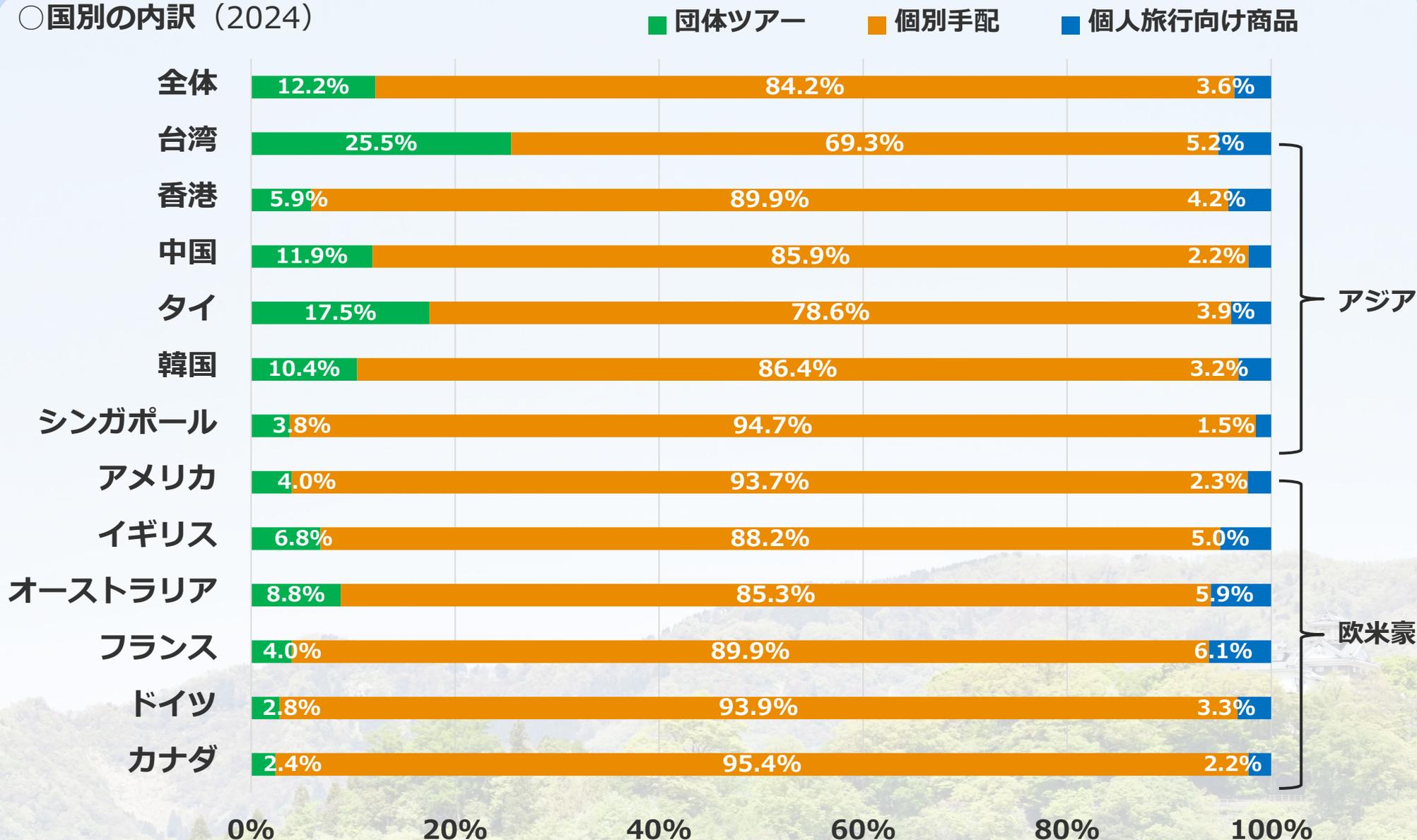
- ・エリア別の割合はアジアが62%、次いでヨーロッパが21%、北米8%、オセアニアが7%となっています。
- ・国・地域別では台湾が44.6%と最も多く、次いでドイツ8.1%、アメリカ7.1%、フランス6.1%、香港5.3%、中国4.8%と台湾に次いで欧米諸国が多くなっています。



順位	国名	延べ人数 (人)	比率	地域
1	台湾	271	44.6%	アジア
2	ドイツ	49	8.1%	ヨーロッパ
3	アメリカ	43	7.1%	北米
4	フランス	37	6.1%	ヨーロッパ
5	香港	32	5.3%	アジア
6	中国	29	4.8%	アジア
7	オーストラリア	28	4.6%	オセアニア
8	シンガポール	16	2.6%	アジア
9	ニュージーランド	15	2.5%	オセアニア
10	カナダ	8	1.3%	北米
11	タイ	7	1.2%	アジア
11	オランダ	7	1.2%	ヨーロッパ
11	ロシア	7	1.2%	ヨーロッパ
14	ベトナム	6	1.0%	アジア
14	イスラエル	6	1.0%	中近東
14	イタリア	6	1.0%	ヨーロッパ

② 現状分析（旅行形態）

○国別の内訳（2024）

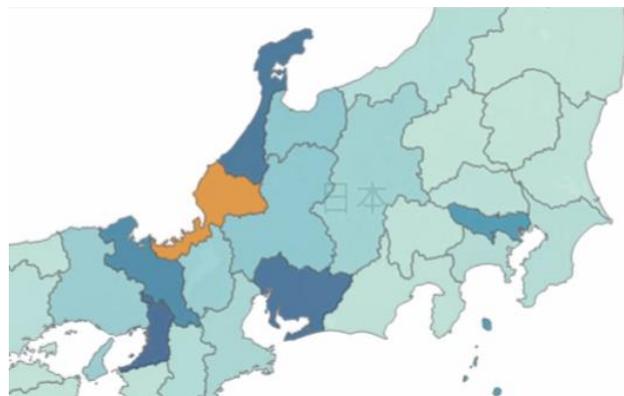


③ 現状分析（来訪エリア）

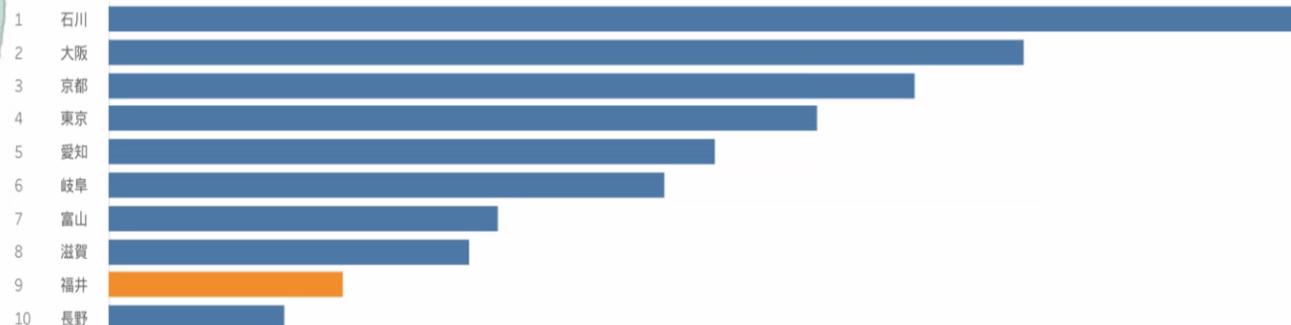
インバウンド人流データ

○前後滞在地ランキング(都道府県)

都道府県 ⇒ **福井**

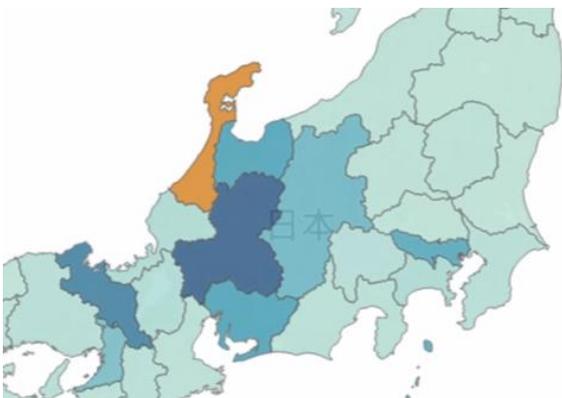


都道府県（出発地） ランク TOP10

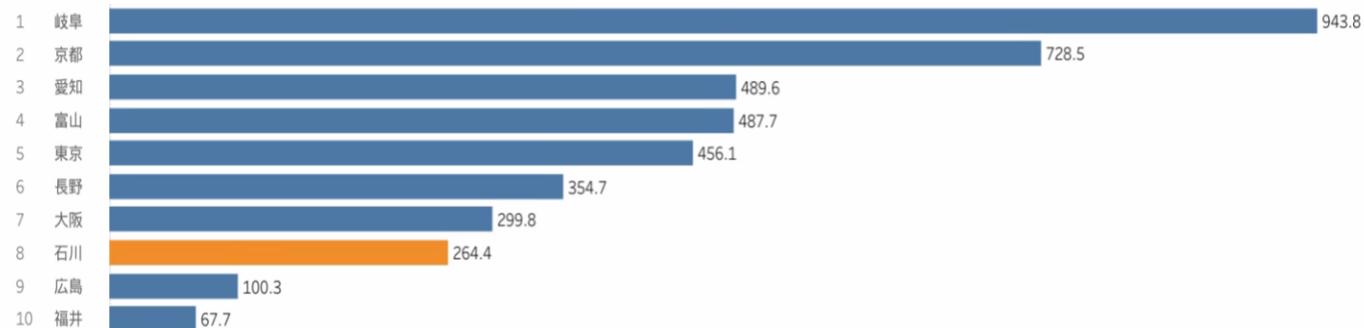


※2014~2022のデータを使用

都道府県 ⇒ **石川**



都道府県(目的地) ランク TOP10



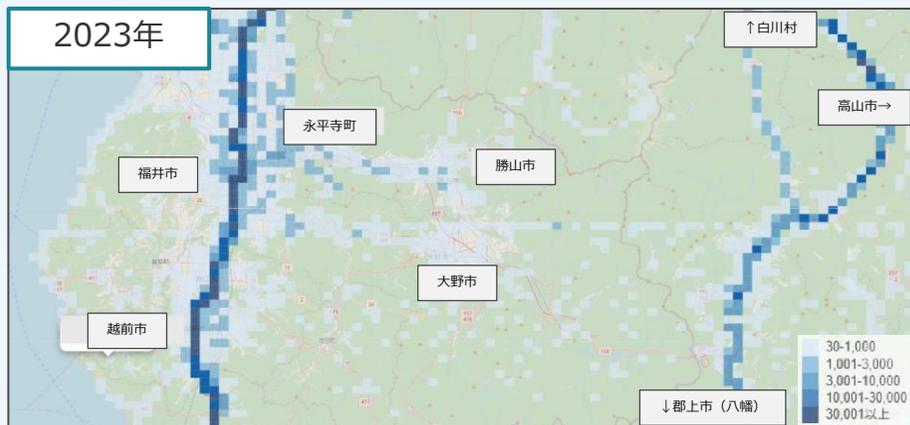
※2014~2022のデータを使用

③ 現状分析（来訪エリア）

人流データ（外国人旅行者）

○メッシュ測位者移動情報

測位者：1～2秒程度でもGPSにより取得したデータをカウント



良い点

- ・北陸新幹線福井・敦賀開業およびインバウンド観光の好調により、北陸新幹線沿線エリアの色が濃くなっている。
- ・愛知など中京圏から郡上市・高山市に行くルートは依然として根強く、外国人旅行者の流れが間近にまで来ている。

悪い点

- ・福井市から大野市までを結ぶエリアの色が薄い。
- ・勝山市までは外国人旅行者が増えているが、そこから大野市までを結ぶエリアの色が薄い。
- ・岐阜県から大野市を通過して福井県に入るルートの色が薄い。

資料：アプリ“Japan Travel by NAVITIME”より

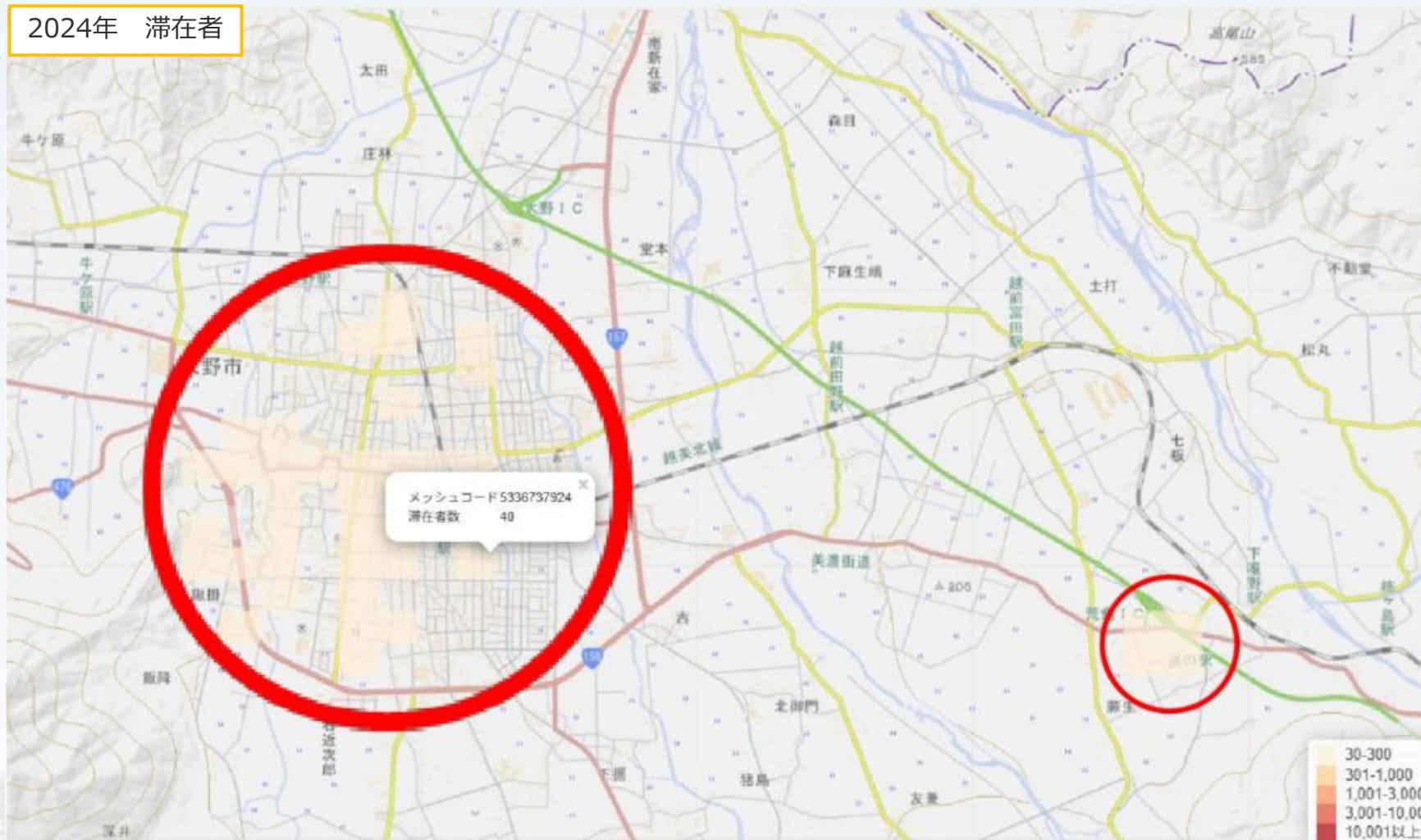
③ 現状分析（来訪エリア）

インバウンド人流データ

○メッシュ滞在者移動情報

滞在者：30分以上2km四方の升目に滞在が認められたカウント

2024年 滞在者



- ・2024年は外国人旅行者は主に**市街地**および**道の駅荒島の郷**に滞在している

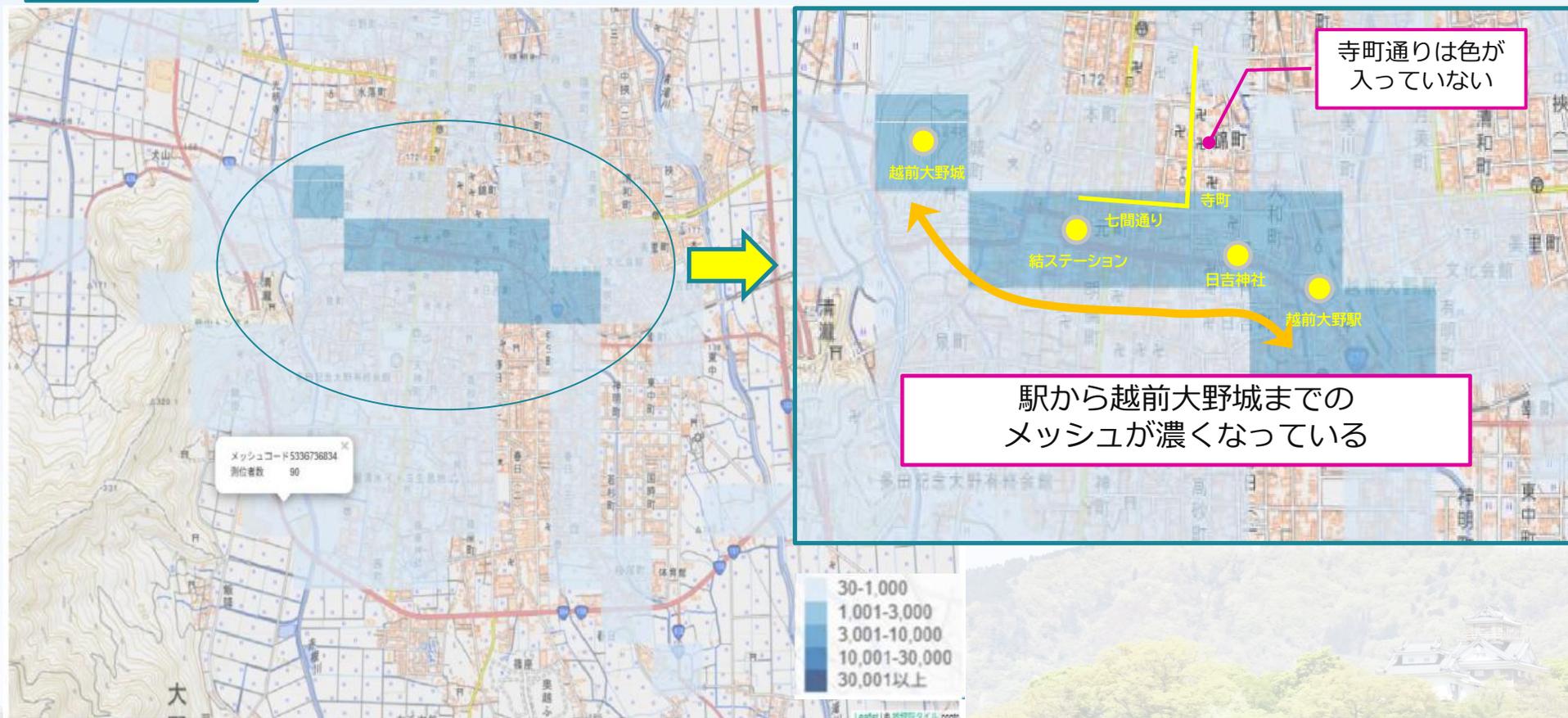
③ 現状分析（来訪エリア）

インバウンド人流データ

○メッシュからみる外国人旅行者の動き

2024年 測位者

測位者：1~2秒程度でもGPSによりヒットしたデータをカウント



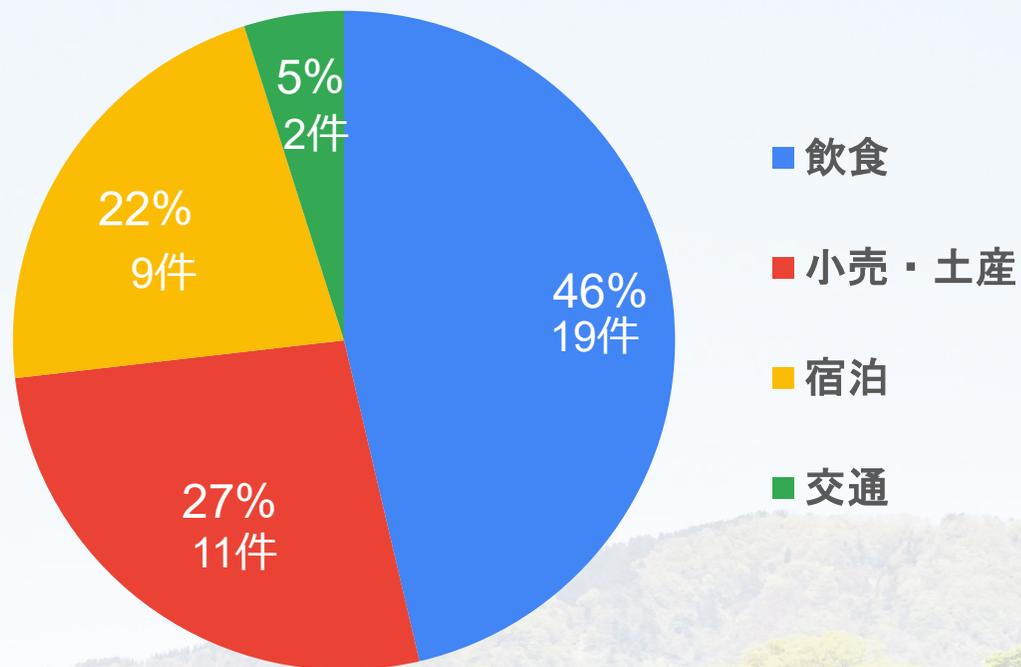
- ・ 駅から越前大野城までが、外国人旅行者の主な動線となっている。
- ・ 寺町など外国人旅行者が興味を持ちやすい観光資源に、アクセスしていない可能性がある。

④ 現状分析（市内事業者アンケート）

○業種

※66事業所のうち41事業所が回答

全 体

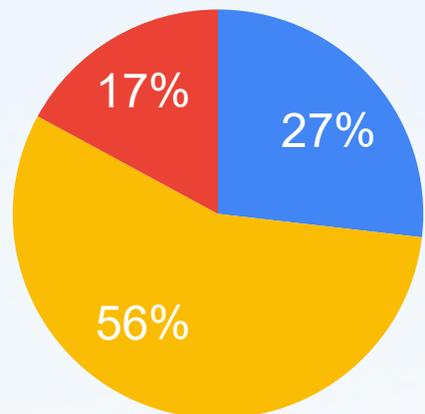


資料：市内事業者向けアンケート

④ 現状分析（市内事業者アンケート）

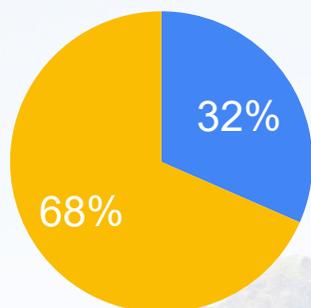
○外国人旅行者の来訪状況（1年）

全 体

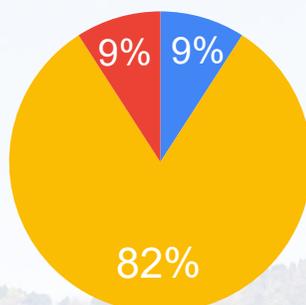


- よく来ている（11組以上）
- 少し来ている（1～10組）
- なし

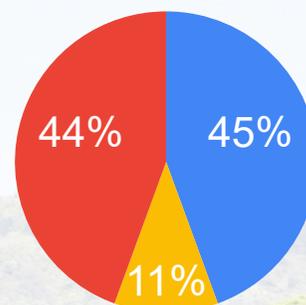
飲食 19件 0%



小売・土産 11件



宿泊 9件



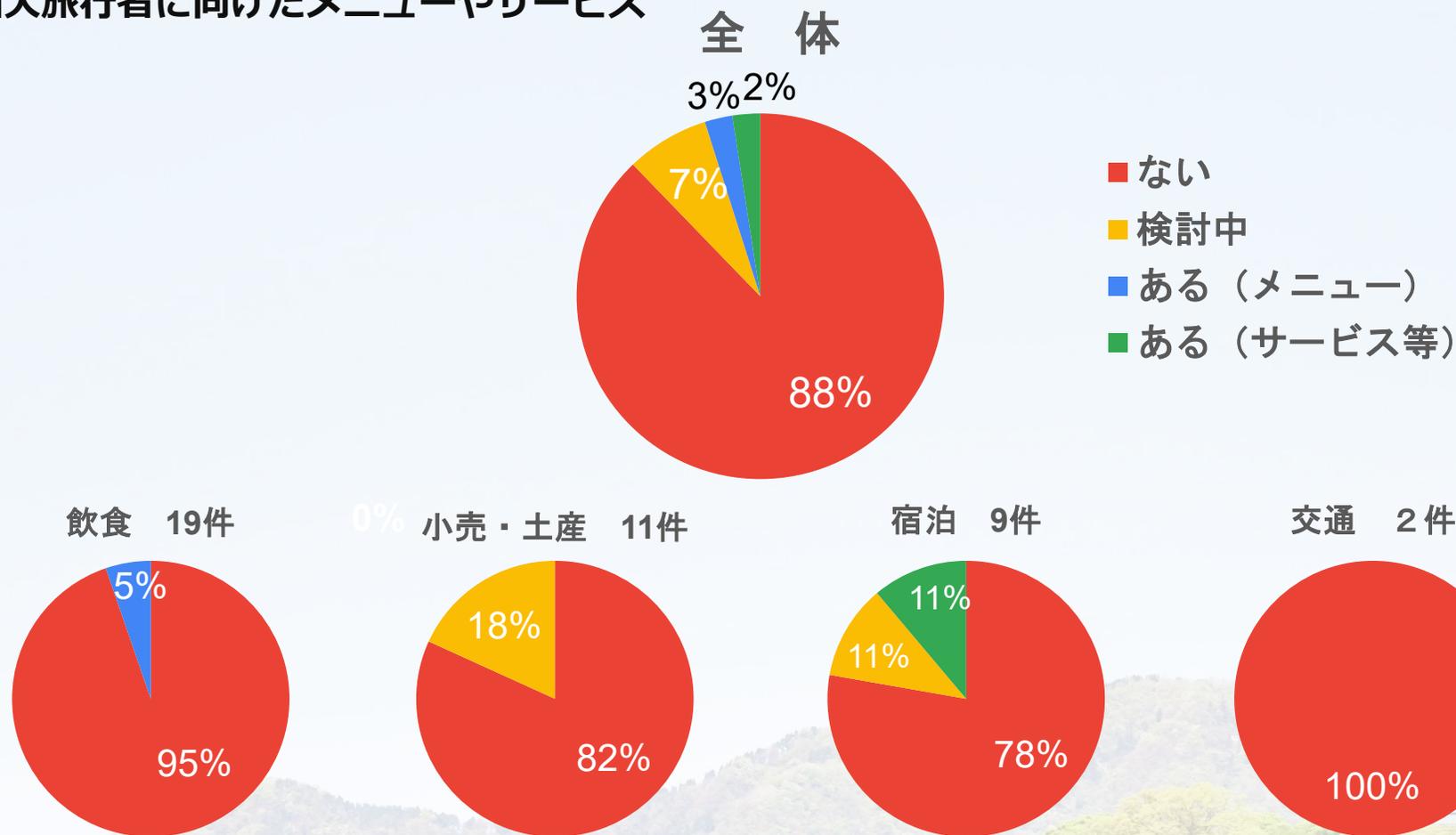
交通 2件 0%



- ・約8割の事業者が「外国人旅行者の来訪している」と回答。
- ・「飲食」「小売・土産」では少数ながら来訪が見られる傾向。
- ・「宿泊」では宿のゲストハウスやホステルなどの比較的新しい宿泊施設の利用が多い。

④ 現状分析（市内事業者アンケート）

○外国人旅行者に向けたメニューやサービス

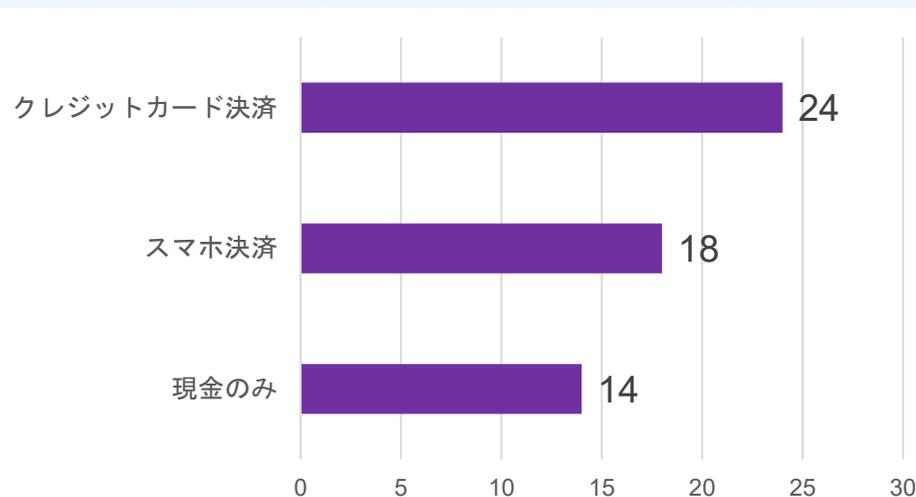


- ・外国人向けのサービスにおいて、多言語化メニューや外国人旅行者向けのサービスはほとんど用意されていない。

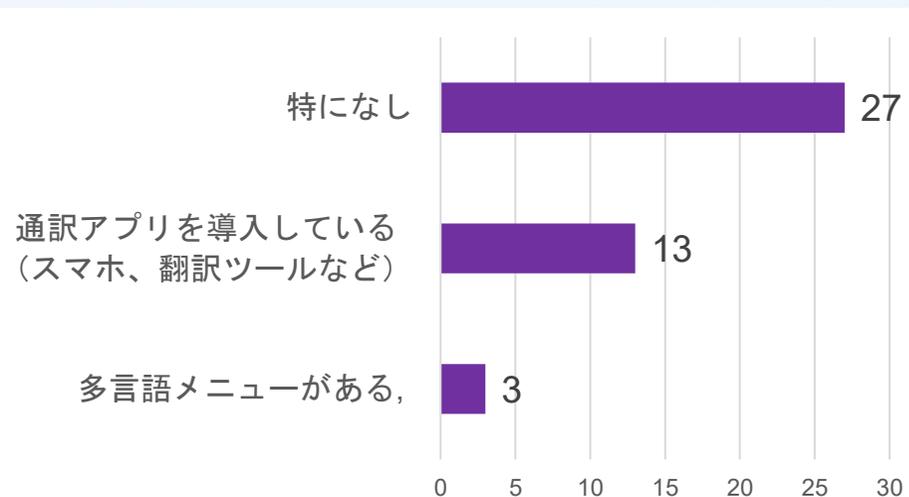
④ 現状分析（市内事業者アンケート）

○受け入対応

・決済方法



・多言語対応



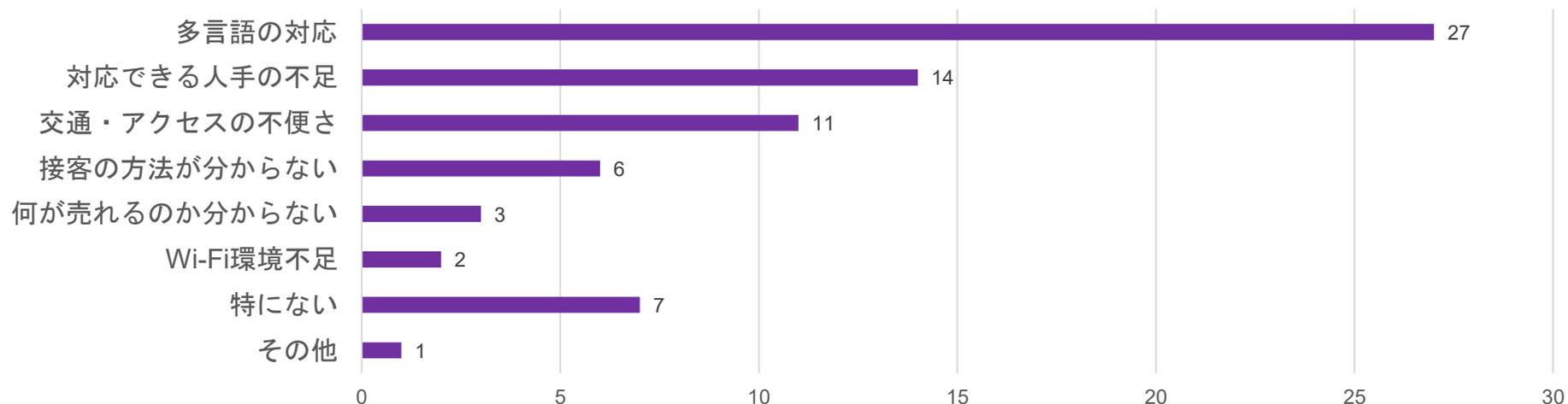
- ・クレジットカード決済を導入している事業者は約6割。
- ・多言語メニューを用意している事業所は少なく、通訳アプリで対応している事業者は一定数存在する。

資料：市内事業者向けアンケート

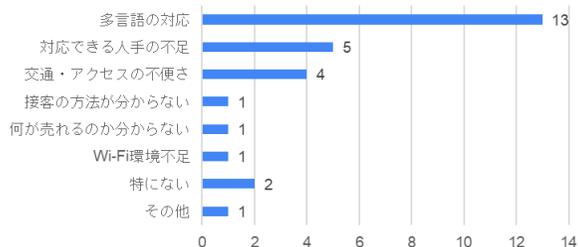
④ 現状分析（市内事業者アンケート）

○受け入に向けた課題

全体



飲食



小売



宿泊



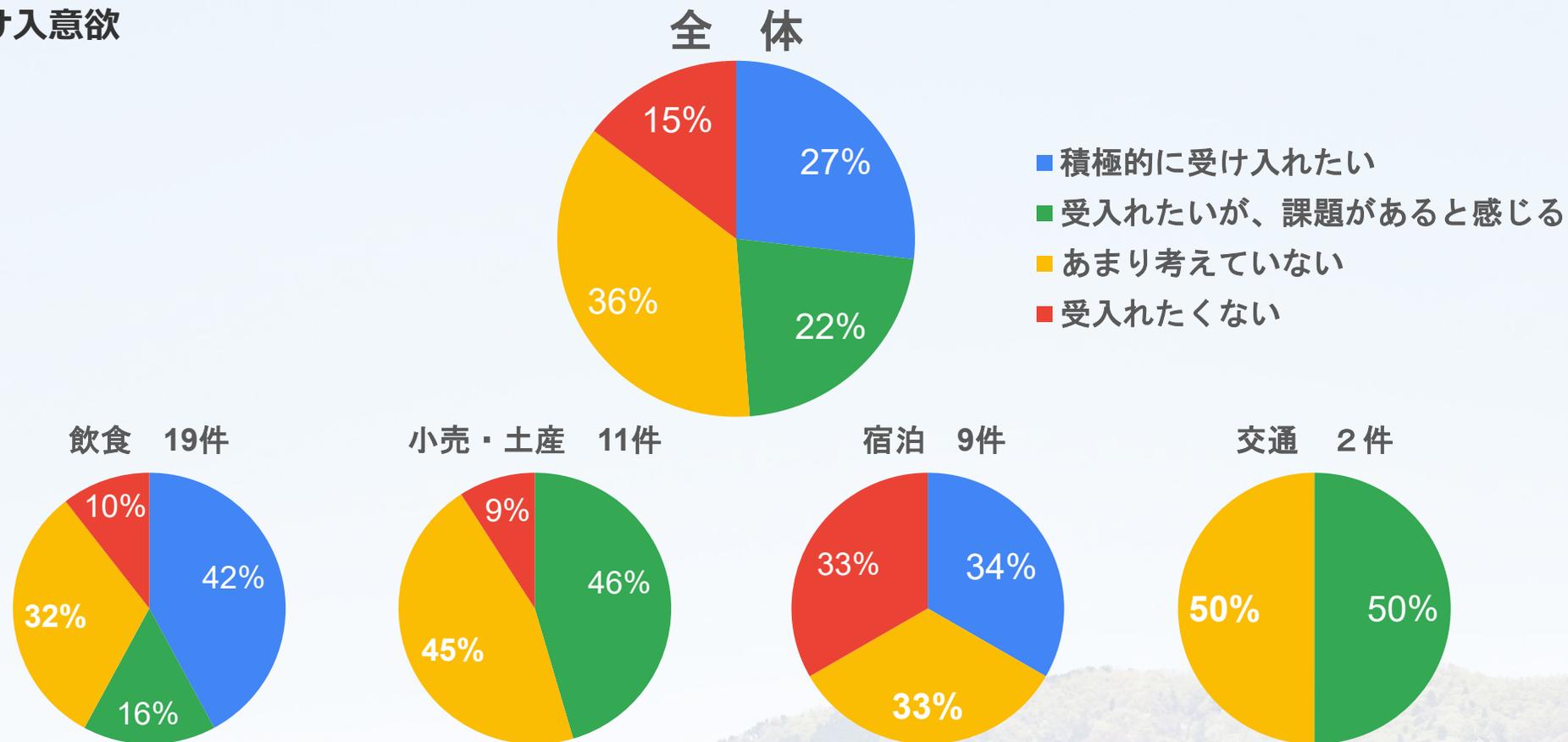
交通



- 「多言語の対応」を課題としている事業者が最も多く、次に「人手不足」や「アクセスの不便さ」が上位となっている。特に飲食では多言語対応に対する課題が高い。

④ 現状分析（市内事業者アンケート）

○受け入意欲

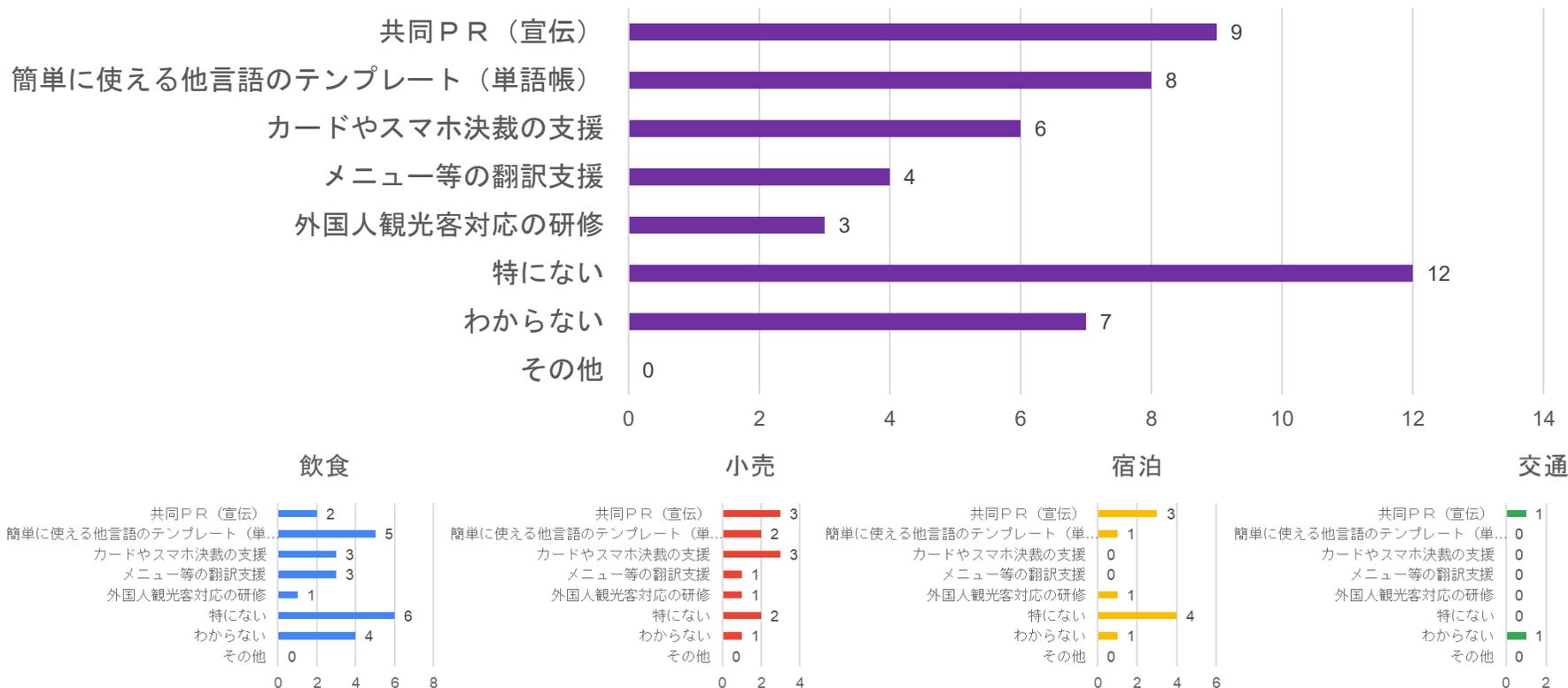


- ・ 受け入意欲については二極化。「飲食」「小売・土産」では前向きな層が約半数となっているものの、「宿泊」では約3割程度に留まっている。
- ・ 「宿泊」ではゲストハウスやホステルが受け入に積極的な一方で、旅館などは消極的な意見が多い結果となった。
- ・ 消極的な意見としては、「対応に時間がかかる」「マナーが悪い」「国内の観光客を重視したい」「少ないため力を入れられない」などがあつた。

④ 現状分析（市内事業者アンケート）

○行政に期待する支援

全体



- ・「多言語化対応」への支援や、「共同PR」に対する期待が一定数ある。
- ・「特になし・わからない」の回答も多く、行政による支援が具体的にどのようなものが認知・イメージされていない可能性もある。

④ 現状分析（市内事業者アンケート）

市内事業者アンケート調査 総括

- ・ **約7割**の事業者が外国人旅行者の来訪を経験しており、来訪数は多くないものの、少なからず**需要がある**。
- ・ 課題としては「多言語メニュー」など受け入りに取り組んでいる**事業者は少ない**また、「多言語対応」や「人手不足」などソフト面の課題も多くみられる。
- ・ 受け入意欲については**二極化**。
「飲食」「小売・土産」では**前向きな層が約半数**となっているものの、「宿泊」では**3割程度**に留まっている。
- ・ 大野市全体として外国人旅行者が少ないため、**受け入について消極的な意見**もあるが、実際に対応している事業者からは**前向きな意見も一定数ある**。
- ・ 「多言語対応」への支援や「共同PR」に対する期待がある一方で、行政の支援がイメージできていない。

資料：市内事業者向けアンケート

